

## 兵庫県高砂市でゴイシジミを初記録

島崎正美・島崎能子

兵庫県におけるゴイシジミ（以下、本種）について「兵庫県の蝶」（2007）によれば、近隣の姫路市や加古川市での記録はあるが高砂市では未記録となっている。筆者らは2019年10月4日、高砂市曾根町の笹竹が多い小道で本種を発見して、笹の葉裏へと回り込む挙動を観察記録し、やがて近くの笹葉上へと転飛して落ち着いたところの撮影記録をとり、記録標本用としての♂の捕獲もできたので初記録として報告する。

この初記録個体は、複数個所で笹の葉裏へと回り込む動作を示したことから産卵したい♀だと思えたが、その葉裏を確認しても産卵の形跡はなくアブラムシ類も観察できなかった。この葉裏へと回り込む一連の挙動のビデオ撮影記録は、薄暗い環境で、かつ、しゃがみ込んでの撮影が容易ではない低い位置であったためにフォーカス合わせをしている間に本種が次々と移動して肝心の本種がぼやけてしまっているが、証拠記録として示しておく（図1）。その後、本個体は道路反対側へと飛び移って高い位置の笹の葉上に落ち着いたところでその撮影記録がとれ（図2）、前翅に丸みがないことから♂だと推定できた。先に観察できた葉裏へと回り込む行動は、分泌物を吸汁する目的でアブラムシ類を探していた可能性が考えられる。

高砂市での初記録個体の標本化が望ましいと考え、捕獲のためにカメラをネットへと持ち換えたが、その際にオオスズメバチが飛来し、刺されないように身をかわしているうちにこの個体の姿を見失ってしまった。しばらくこの場所から離れ、15分ほどしてもどる途上、薄暗い笹竹の影部分を飛ぶ小型の本種を認めた。ビデオカメラを準備するあいだに飛び去られることが懸念され、ネットでの確実な捕獲を優先したため撮影記録はないが新鮮な♂個体を確保した。

本種の撮影記録をとった個体と捕獲した個体が別個体だと考え、飛び去られた個体がいるはずだと、発見できた場所にその後10月5日、7日、9日、13日、17日と五度訪れたが本種もアブラムシ類もまったく姿を見ることができなく、結果的に10月4日に捕獲した個体が撮影記録をとった個体と同一個体である可能性が考えられる。範囲を広げて調べた笹竹に、六度ともアブラムシ類や本種の発生と関係がありそうな群れを成すアリ（図3）を複数個所で観察できたがゴイシジミの発生との関係は分からない。

本種については2002年9月8日に加古川市志方町で加古川の里山・ギフチョウ・ネット代表の竹内隆氏が記録した例（2010）と、高嶋明氏による同じ志方町での記録が「兵庫県の蝶」（2007）に記載されているが、その後の観察例はなく、加古川市でも極めて稀な種となっている。「兵庫県の蝶」（2007）には、マーキング調査によって本種が強い移動習性をもつことが確認できているとの記載が



図1 葉裏に回り込むゴイシジミ。



図2 ササの葉上で静止するゴイシジミ。



図3 ササの葉上のアリの1種。

あり、今回発見できた本種が実際にこの場所で発生した個体なのかどうか、現時点では定かでない。

幼虫が純肉食性で竹類の葉に寄生するタケノアブラムシやササコフキツノアブラムシなどを食べて育つ本種の全国分布が近年縮小しているといわれるが、一因として、笹類を主食の一つとするシカ害が関係しているのは疑いなく、シカ害がまだ発生していない高砂市が貴重な生息地として存続できるかどうか、継続調査が必要である。

捕獲した初記録個体の標本化を加古川の里山・ギフチョウ・ネット会員の立岩幸雄氏にお願いし、完成標本については「兵庫県の蝶」の共著者でNPO法人こどもとむしの会理事でもある近藤伸一氏に相談し、兵庫県佐用町の佐用町昆虫館で保管展示していただく予定である。

本報告に際し、ご協力くださった近藤伸一氏と立岩幸雄氏に感謝いたします。

### ○参考文献

- 島崎正美, 2010, 加古川の蝶：年間発生状況, きべりはむし, 32: 12-14.  
広畑政巳, 近藤伸一, 2007, 兵庫県の蝶, 330pp., p. 139-142, 岩峰社, 東京

(Masami SHIMAZAKI, Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)